

教育検討委員会活動報告

2018年9月25日作成

担当理事 市川 洋

1. 委員会体制について

委員会委員による互選の結果、以下の体制となった。

委員長：市川 洋 副委員長：宮嶋 敏、木村 学

幹事：西 弘嗣、阿部 なつ江、畠山 正恒、瀧上 豊、阿部 國廣、根本 泰雄、
西山 忠男、田口 康博

2. 2018年国際地学オリンピック参加の結果報告

2018年8月8日～17日にタイのカンチャナブリで第12回国際地学オリンピック・タイ大会が開催され、38ヶ国・地域から139人の代表選手が参加しました。日本チームは代表生徒4名とゲスト生徒（表彰対象外）2名、メンター2名、オブザーバー6名の体制でした。

日本の成績は金メダル3個、銀メダル1個。メダル数から推定した国順位は1位が米国（金4）、日本は昨年同様2位でした。今年も上位層は僅差でメダルの色が異なる争いとなりました。なお、ゲスト生徒は2名とも銀メダル相当の成績でした。

試験は2種の筆記と4種の実技で、筆記1の内容は、大陸氷河の消長、石灰岩地帯の洞窟環境の地球化学、第四紀の気候変動といった地球システムに関する問題でした。また天文分野は、土星の衛星や火星の地形や地質で、昨年度同様、太陽系科学のみの出題でした。その他に、アイソスタシーに関する問題や最近の気温変化のグラフを使った問題、海洋学に関する問題など、示された情報から読み取る能力が求められる、いわゆる「PISA型」の問題が見られました。筆記2は高校地学レベルの都市気象の問題、そして太陽系科学（火星、月、金星）の問題、過去の地球の環境に関する問題などでした。実技1は、標本を見て岩石・鉱物、化石の同定や堆積岩の形成環境に関する問題、工業原料の鉱石に関する問題でした。実技2・3は露頭での地層の走向・傾斜測定と岩石の同定、地質構造の解釈、実技4は大陸氷床融解のモデル実験と水質汚染に関する問題でした。

帰国後の8月22日に文部科学省の新妻秀規大臣政務官を表敬訪問し、代表生徒全員が大臣表彰を受けました。懇談は高校地学の学習内容の話で盛り上がりました。

来年は韓国大会で、評価の比率が筆記試験6割、実技試験4割と変更されることが決まりました（今までは筆記7割、実技3割）。来年度に向けて、わが国の生徒が持っている優れた資質・能力を国際大会でいかに発揮できるよう、あらゆる面での皆様の一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

NPO 法人 地学オリンピック日本委員会 理事長 川村 教一（秋田大学） JGL 原稿

3. 2018年国際地理オリンピック参加の結果報告

第15回国際地理オリンピック・カナダ大会には43か国・地域、合計167名の高校生が参加し、7月31日～8月6日までの日程の中、記述式、フィールドワーク、マルチメディアの3種類の試験にチャレンジをしました。フィールドワークは、ケベック・シティの中心市街地から北東方向、セ

ントローレンス川沿いにバスで約1時間に位置するペー・サン・ポールで実施され、景観観察を通じて地図作成などを行いました。

試験以外にも、ポスターセッション、2つのエクスカージョン、文化交流と盛りだくさんのプログラム内容で、日本選手たちは自身の地理的能力をいかんなく発揮するとともに、各国の選手たちとの交流もおおいに楽しみました。その中で、団体部門のポスターセッション（テーマは「水が人々の生活に与える影響」）では、日本選手4人は浴衣を着て各国の参加者たちにプレゼンを行いました。地理学的な研究手法にのっとり、調査地域（静岡県三島市）の特性を踏まえ、富士山がもたらした湧水の恵みと地域住民の関わり、そして三島で過去に生じた課題に対してどのような解決策がなされているかをプレゼンしました。

個人部門では残念ながらメダルを獲得することはできませんでしたが、彼ら一人ひとりは大いに健闘してくれました。佐藤光駿くん（東京・早稲田高校3年）、長岡祐生くん（鹿児島・ラ・サール高校3年）、武藤彰宏くん（都立日比谷高校3年）は、今後はOBとして今回の経験を来年度以降の代表生徒に伝えていってくれるでしょう。また、中尾俊介くん（京都・洛星高校2年）は、来年度も高校生として様々なことに挑戦してほしいと思います。また、閉会式の日には、国際地理オリンピック日本委員会委員長の小口高先生をはじめとした、IGUに参加をされている先生方との懇親会も開かれました。

ケベックから帰国後の8月9日、日本代表選手4名は、文部科学省を表敬訪問しました。

次年度は香港での開催となります。日本代表の今回の健闘を称えるとともに、日本代表の次回以降のさらなる活躍を期待したいと思います。

国際地理オリンピック日本委員会ウェブサイトより作成

4. アースサイエンスウィーク・ジャパン in 静岡の準備状況について

開催日：10月13日－19日

場 所：ふじのくに地球環境史ミュージアム、他

日 程：13－19日 地球科学特別展示（休館日の15日(月)を除く）

13日 講演会・発表会

14日 北伊豆ジオパーク巡検

担 当：教育国際対応小委員会

準備状況：

8月24日にウェブサイトをオープン（<https://www.earthsciweekjp.org/>）

9月6日に2種のリーフレットを完成

9月12日に以下のウェブサイトのイベント情報欄に開催情報を掲載

JSTサイエンスポータル、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会

巡検の申込人数 33名（9月25日現在）

5. 第76回教育課程小委員会開催

日時：9月22日(土) 13時－17時

場所：学会センタービル地下会議室

議題：・次期学習指導要領（解説）の内容理解、

・次年度パブリックセッションについて、 他

以上